

## 国境を越える人の移動とジェンダー

日時 2015年11月27日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 酒井 千絵（社会学部准教授）

情報や資本、モノが国境を越えて行き交う現代、世界は以前よりも「狭く」なったといわれる。実際、私たちは、外国で作られた製品を数多く消費し、国外へ輸出するものを生産している。現在、日々の生活で国の外側と関わりなく暮らしているという人はほとんどいない。

しかし人の物理的な移動は、お金や商品の流れと異なり、実際に経験していない人にはイメージしにくい行為である。特に、女性は男性家族に伴われて移動するものだという先入観が強く、移動という選択の主体とは見なされてこなかった。

1980年代半ば以降、社会科学の領域で、女性の国際移動も重要な現象だという議論が行われるようになった。実際、現在多くの地域で、女性の国際移動は男性のそれを上回っている。これは、産業構造の変化により、サービス、特に介護や育児などのケア労働における人の移動が拡大しているためだ。さらに、女性は、出身地と受入先との二つの文化を学び、受け入れ、子ども世代に伝達するという役割を担うため、双方の文化から同化や伝統維持のシンボルと見なされる傾向がある。

今回の公開講座では、日本に関わる国際移動を他の地域とも比較しながら、女性の移動がどのような特徴を持つのかを考える。日本社会は、移民政策不在のまま、外国からの人口流入に依存してきたが、現在少子高齢化が進む中で、介護労働への外国人労働力受け入れに関する議論が進んでいる。同時に、日本社会を離れて国外に移住するという選択が多様化し、海外在留邦人数も、女性が過半数を超える状況が続いている。こうした具体的な状況に触れながら、国際移動という選択や、移動する人びとと受け入れる社会の変化を通して、日本社会のジェンダー関係を議論していく。

\* \* \*

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。  
手話通訳が必要な場合は、11月12日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車  
Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081  
ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>